

奥州市立病院・診療所
経営強化プラン点検・評価報告
(令和5年度実績)

1. 医療局全体にかかる点検・評価	P1
2. 総合水沢病院にかかる点検・評価	P5
3. まごころ病院にかかる点検・評価	P8
4. 前沢診療所にかかる点検・評価	P11
5. 衣川診療所にかかる点検・評価	P14
6. 衣川歯科診療所にかかる点検・評価	P17

令和6年12月
奥州市医療局

令和5年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調書

施設名	医療局全体
-----	-------

I 取組の実施状況にかかる評価

プラン		取組状況と内部評価	運営評価委員からの意見等
大項目	中項目		
1. 役割・機能の最適化と連携の強化 (P21)	地域医療構想を踏まえた市立医療施設が果たすべき役割・機能	当圏域では、県立胆沢病院が基幹病院として急性期医療を担い、他の病院が軽度の急性期から慢性期までを担って基幹病院を補完する形の医療提供体制が構築されています。 市立医療施設についても地域医療構想の実現に向け、総合水沢病院では急性期機能から今後の需要が見込まれる回復期機能への転換を進めてきました。まごころ病院では地域に密着した病院として訪問診療や回復期を中心とした医療を提供しています。前沢診療所は生活習慣病予防や認知症啓発の取り組みに力を入れて取り組みました。衣川診療所・衣川歯科診療所は同地域におけるへき地診療所として、隣接する介護施設と共に地域包括ケアの拠点施設としての役割を担っています。 各医療施設がそれぞれの特色を生かしながら地域医療構想を踏まえた取り組みを進めていると考えています。今後も人口減少や医療ニーズの変化による役割・機能の変化が想定されることから、市立医療施設の機能や規模の最適化について引き続き検討していきます。	・救急車搬送、ウォークインの来院区分毎に入院した救急患者の1人1日当たり診療収入及び入院を要した主な傷病名上位3位の推移を可能な範囲で評価してはどうか。 ・公立病院は非採算部門の医療を担う必要があり、一般会計からの繰入れは必要であるとは思いますが、現状、医業収益の90%以上が給与となっており、また、今後医業収益の増加は考え難いため、病院・診療所のダウンサイジング、合併統合、サテライト化などでの経費削減に努められたい。 ・外来患者数の減少が目立つ。奥州市民に愛される病院・診療所になるように、医師・看護師・職員が一丸となって話し合い、改善策を行動に移すよう努められたい。 ・高齢者人口の増加に対応できるよう、在宅医療の体制強化、軽症・中等症を中心とした高齢者救急の受入体制の強化の必要がある。例えば回復期リハビリテーション病棟、地域医療包括病棟のように特化した機能を持つなど、新たな地域医療構想も見据えた取組が必要。同時に生産年齢人口の減少が進行するので医療者の雇用が厳しくなることを見据え、医療圏全体で医療機関の機能分担、協調していく医療体制を構築する必要がある。
	地域包括ケアシステム構築に向け果たすべき役割・機能	市立医療施設における地域医療施策として下記の在宅医療施策を実施しました。特にまごころ病院では在宅療養支援病院としても地域の包括的な支援・サービス提供体制を提供しており、在宅で療養する患者が可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう適切な医療ケアを行い支援しました。 *訪問診療：総合水沢病院、まごころ病院 *訪問看護：総合水沢病院（訪問看護ステーションきらり）、まごころ病院 *訪問リハビリ：まごころ病院 *訪問歯科診療：まごころ病院、衣川歯科診療所 全国的に高齢化が進む中で、当圏域の在宅医療の需要が今後も伸びていくことが想定されるため、公立医療施設としての在宅医療への取り組みを更に伸ばしていくことが必要と考えています。	・病床の機能ごとに診療報酬の出来高ラインの一定の目安があるので、届出している病床機能と実際の患者の傾向が合っているのかを確認する等、診療報酬などのデータを使い、点数上の評価をすることも有効ではないか。 ・急性期機能を有する病床、回復期機能を有する病床（地域包括ケア病床及びその他病床）毎に入院患者1人1日当たり診療収入及び入院を要した主な傷病名上位3位の推移を可能な範囲で評価してはどうか。 ・訪問診療を受療している患者1人1日当たり診療収入及び診療を要している傷病名上位3位の推移を可能な範囲で評価してはどうか。

プラン		取組状況と内部評価	運営評価委員からの意見等
大項目	中項目		
1. 役割・機能の最適化と連携の強化 (P21)	機能分化・連携強化	市立医療施設が担うべき役割や機能を明確化し、施設間や圏域内での医療機関の連携を進めることとしています。 総合水沢病院は、市立医療施設の中心的な役割が期待されており、新医療センターの整備を進めています。連携強化については、職員の意思疎通を図るための合同職員研修の実施や各施設間の検査委託及び電子カルテの更新に伴うデータ共有などに努めるほか、緊急時における職員応援体制も検討を進めました。 市ではネットワーク型の医療提供体制による効率化を図ることとしており、市立医療施設として、引き続き機能分化と連携強化の取り組みを進めていく必要があると考えています。	・市立医療機関間でどのような連携があるか、人の交流などが行われているかが見えてこない。 ・医療従事者の雇用が厳しくなっていくことから、病院間で医師等医療従事者の行き来が必要となるといった考え方を持つ必要がある。
2. 医師・看護師等の確保と働き方改革 (P29～30)	医師・看護師の確保	令和5年度は、総合水沢病院の内科、麻酔科の医師が2人増、まごころ病院内科医師が1人増となりました。県や国保連との連携強化により県の医師奨学生義務履行先としての派遣、当市の奨学資金制度の義務履行による着任までの対応プロセスを見直しを行い、着任に結びつけることができました。 また、医師確保対策選任職員を配置し医師奨学生向けの広報誌の配布や各就職説明会やSNS活用による医療スタッフの確保に努めました。 看護師については、看護師採用に特化した募集パンフレットの作成や看護学生向け就職情報サイトの活用、就職セミナーへのブース参加など、新規応募者の獲得に向けた取り組みを行い、採用試験は、年3回の市職員採用試験に合わせて実施していた試験に加え医療局単独試験を1回追加しました。 以上の取り組みにより、令和5年度は看護師4名を新規採用することができました。 しかし依然として医師や看護師の雇用環境は難しい状況が続いているため、関連大学との関係強化の取り組みや、応募条件の緩和及び働きやすい職場の在り方を検討するなど、医療スタッフの確保と長期雇用の取り組みを進めていきます。	・医師が増員となり、医療者の確保に成果を上げていることを評価する。 ・医師奨学生との面談の積極的な実施を。
	医師の働き方改革への対応	総合水沢病院、まごころ病院では医師事務作業補助者を配置し医師の負担軽減を図ったほか、宿日直許可を取得しました。 良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するため、引き続き医師の働き方の適正化に向けて取り組んでいきます。	
3. 経営形態の見直し (P30)		当面の間、現状の地方公営企業法の全部適用を維持する中で、経営強化プランの取組によって経営改善に努めてまいります。	
4. 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組 (P30～31)		各施設において感染症対策マニュアルを整備し、感染防護具の備蓄を行うなど、有事に備えた体制を整えています。 新型コロナウイルス感染症蔓延時、総合水沢病院では重点医療機関として病床を拡充して患者への対応を行ったほか、専用病室の陰圧化やPCR検査の受託等、感染症に対応する医療環境の整備を行ってきました。 市立医療施設においての発熱外来の実施、院内の感染症対策等の対応は随時行っていますが、その手法や感染症対策マニュアルは随時検討しブラッシュアップしていきます。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、医療機関はこれまでと同様の感染症対策を継続する必要があるとあり、経費、人的体制両方に大きな影響があった。

プラン		取組状況と内部評価	運営評価委員からの意見等
大項目	中項目		
5. 施設・設備の最適化 (P31)	施設・設備の最適化	5施設のほとんどが老朽化がみられる施設のため、施設、医療機器の修繕や更新については計画的に実施しています。また、今後の更新については、必要に応じてダウンサイジング化を検討していきます。	・各病院・診療所の入院総数を見ると、現在の水沢病院のベッド数でほぼ対応できると思われ、他の施設の病床を廃止し1ヶ所にまとめるなど、整理が必要ではないか。
	デジタル化への対応	施設の規模や運用状況に応じて、適切な電子カルテシステムを導入し、効率的で安全性の高い医療の提供を行っています。(導入施設:総合水沢病院、まごころ病院、前沢診療所、衣川診療所) 引き続き、医療におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の導入等、デジタル化の対応を検討していきます。	
新医療センター開業までの取組 (P20)	地域医療の強化・地域包括ケアシステムの推進	回復期病床の増床やリハビリ機能の強化、訪問看護ステーション機能の強化については、引き続き検討を進めていきます。 地理的な制約や交通の問題で医療サービスにアクセスしにくい地域である衣川地域においては、令和6年2月から遠隔診療車を活用したモバイルクリニックの運用を開始しました。運用成果や今後の需要ニーズを確認しつつ拡大していく必要があると考えます。	
	市立医療施設の経営改善	入院施設のある総合水沢病院、まごころ病院、衣川診療所においては、低迷している病床利用率の向上を図ることにより、医業収入を増やし、医業収支比率の改善を図ることが必要と考えています。令和5年度は病床受け入れ体制の改善や救急車対応件数の増加により入院患者数が増加した施設もありますが、他の医療機関や施設との連携を強化し紹介率を向上させるなど、更なる改善が必要です。 今後も経営強化プランの改善に向けた具体的な取組を進めることにより、目標達成を目指します。	・令和6年度以降の目標値が現実と乖離している印象である。人口減少が予想されるため、現実には則した目標値の設定が必要ではないか。 ・新医療センター開設時点で総合水沢病院分はダウンサイズとなるが、現時点からダウンサイジングしても良いのでは。 ・これまで様々な取組をしてきているが、今までのやり方では限界が来ている可能性がある。風通しを良くし、ローテーションで医師が他の施設で診察するなど、改革・変化・進化をし、新しい風を吹かせて魅力ある病院づくりを期待する。

Ⅱ 収支計画の実績

【医療局全体】

1 収益的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
1 医業収益	2,715,929	2,527,121	-188,808	93%
(1) 入院収益	1,150,664	1,038,184	-112,480	90%
(2) 外来収益	1,204,532	1,112,825	-91,707	92%
(3) その他医業収益	360,733	363,717	2,984	101%
うち他会計負担金	206,821	206,821	0	100%
2 医業費用	4,346,349	4,025,069	-321,280	93%
(1) 給与費	2,443,497	2,336,914	-106,583	96%
(2) 材料費	492,781	419,640	-73,141	85%
(3) 経費	1,122,848	998,450	-124,398	89%
(4) 減価償却費	246,039	246,033	-6	100%
(5) 資産減耗費	9,340	3,754	-5,586	40%
(6) 研究研修費	15,843	7,883	-7,960	50%
(7) 本部費配賦額	16,001	12,395	-3,606	77%
医業損益	-1,630,420	-1,497,948	132,472	92%
3 医業外収益	1,352,424	1,351,929	-495	100%
4 医業外費用	144,323	189,442	45,119	131%
5 訪問看護事業収益	69,709	56,163	-13,546	81%
(1) 外来収益	69,709	56,163	-13,546	81%
(2) その他医業収益	0	0	0	-
6 訪問看護事業費用	89,727	78,163	-11,564	87%
(1) 給与費	82,797	74,510	-8,287	90%
(2) 材料費	0	0	0	-
(3) 経費	6,778	3,640	-3,138	54%
(4) 減価償却費	0	0	0	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-
(6) 研究研修費	152	12	-140	8%
7 訪問看護事業外収益	37	37	0	100%
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-
経常損益	-442,300	-357,425	84,875	81%
特別利益	9	2,071	2,062	23011%
特別損失	16,655	45,025	28,370	270%
当年度純損益	-458,946	-400,378	58,568	87%
前年度繰越欠損金	1,245,496	1,245,496	0	100%
当年度未処理欠損金	1,704,442	1,645,874	-58,568	97%

※予備費は未計上

※増減率は、収益の項目は増減率が高いほど達成度が高く、費用の項目は増減率が低いほど達成度が高いと判断します。

2 資本的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
資本的収入	239,416	238,872	544	100%
資本的支出	421,872	421,872	0	100%

3 一般会計繰出金

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
収益的収支	1,268,110	1,248,451	-19,659	98%
資本的収支	217,405	212,719	-4,686	98%
合 計	1,485,515	1,461,170	-24,345	98%

内部評価	運営評価委員会における評価
令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移りましたが、依然として感染症患者は発生し、医療機関はこれまでと同様の感染症対策を継続して実施する必要があり、経費、人的体制両方に大きな影響がありました。 医業収益は、新型コロナウイルス感染症に関連する収入が減少したことにより減収となりましたが、経営強化プランの計画値と実績の差は10%以内であり、概ね達成できています。 医業費用については、計画値に対して3千200万円の支出減少となり目標を達成することができました。 当年度純損失は、計画値に対して5千800万円減少し目標は達成できていますが、新型コロナウイルス感染症関連の補助金の廃止による影響も大きく、経常損失は3億5千700万円計上しており、今後も引き続き経費の削減、医業収益の増収を図り、経営の安定化に努める必要があると考えます。	・医業収入に対して、職員給与比率が高い。民間の病院・診療所では、50%を超える人件費率では経営が破綻する。 ・収支の均衡を図るためには、患者を増やし、ベッドの稼働率を上げていく必要がある。そのためには地域住民から信頼・評価される病院づくりを。 ・医業収益は、新型コロナウイルス感染症に関連する収入が減少したことにより減収となったが、経営強化プランの計画値と実績の差は10%以内であり、概ね達成できている。 ・医業費用は、計画値に対して支出減少となり目標を達成することができている。 ・新型コロナウイルス感染症関連の補助金の廃止による影響も大きく、経常損失は3億5千700万円を計上しており、今後も引き続き経費の削減、医業収益の増収を図り、経営の安定化に努められたい。 ・各医療機関はそれぞれ異なる課題を抱えているが、全体として経営改善に向けた努力を継続しており、今後の更なる改善が期待される。

令和5年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調書

施設名	総合水沢病院
-----	--------

I 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和5年度 目標(A)	令和5年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	増減理由
医師数	12人	12人	100.00%	A	コロナ入院患者の減少による
入院患者数	18,250人	16,471人	90.25%	B	
外来患者数	60,060人	52,433人	87.30%	C	
平均在院日数(※1)	14.0日	15.3日	109.29%	A	ベッドコントロールナースの設置による
紹介率	20.0%	20.6%	103.00%	A	救急車は可能な限り受け入れるよう病院の取組を進めたことで患者数が増加した。
救急車搬送者数	750人	845人	112.67%	A	
救急患者受入数	1,100人	1,051人	95.55%	B	
訪問診療件数	150件	164件	109.33%	A	
訪問看護件数	5,200件	5,393件	103.71%	A	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分		令和5年度目標	令和5年度実績	達成度	増減理由
収益改善に係る目標	経常収支比率	89.7%	88.9%	B	コロナ入院患者の減少による
	医業収支比率	63.0%	60.8%	B	
	修正医業収支比率	57.6%	55.0%	B	
	累積欠損金比率(※2)	55.3%	62.8%	B	
収入確保に係る目標	1日当たり平均患者数	入院 49.9人	45.0人	B	コロナにより高かった単価が5類移行後減少したため
		外来 247.2人	238.0人	B	
	患者1人1日当たり診療収入	入院 42,000円	38,345円	B	
		外来 10,681円	10,878円	A	
経費削減に係る目標	病床利用率	52.5%	47.4%	B	電子カルテ導入により各種医療機器連携費用が増加したため
	対修正医業収益比率(※1)	材料費	21.4%	20.1%	A
		委託費	20.8%	22.8%	B
		職員給与費	98.5%	99.3%	B
		減価償却費	7.8%	8.5%	B
経費削減に係る目標	常勤医師数	12人	12人	A	前年度と同数
	常勤看護師数	100人	90人	B	前年度と同数

【達成度について】

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%未満の場合

※1については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が110%以上の場合

※2については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。実績値が目標値より低い場合がA、差が10%まではB、10%以上はCとします。

Ⅱ 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.病床利用率の向上対策	○	ベッドコントロールナースを設置するとともに、コロナ禍により全国平均より著しい入院日数の短縮がみられていたため、診療部の目標として、5病棟の病床利用率80%、適切な在院日数を掲げ、地域包括病床の積極的利用、多職種と協働し患者がより良い形で自宅に戻れるよう取り組みました。
2.救急車の応需率の向上対策	○	診療部の目標として、救急患者の積極的受入れ(救急車受入れ700件/年以上、救急車搬送お断り理由報告書提出100%)を掲げ、できるだけ受入れできるようにバックアップを実施。受入れできない場合に当たる事例を可視化。【令和5年度実績】受入れ件数845件(前年比153件増)、応需率60%
3.医師奨学生義務履行の取組強化	○	非常勤(週1日)で義務履行している医師奨学生の早期着任を目指し、本人との面談や大学教授への訪問を複数回実施した。【令和5年度実績】循環器内科医1名 令和6年度義務履行予定
4.医療連携室の体制強化と取組内容の見直し	○	連携だより発行にあわせ関係機関への定期訪問を行った。地域連携パス会議に積極的に参加した。
5.理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの増員によるリハビリ部門の強化	○	令和6年度で理学療法士2名を採用
6.全身MRIによるがん検診の促進	○	令和5年7月導入後、周知を図るため、報道機関へ公開し、テレビ、新聞等で報道された。また、市広報、市HP、新聞広告に掲載。【令和5年度実績】285件、12,089,920円
7.宿日直許可の取得	◎	令和5年7月5日取得済み
8.電子カルテ等の活用による情報連携	○	電子カルテシステム令和5年12月導入。
9.施設間検査受委託による外部委託の縮小	○	医療局内の他院で外注している検査項目のうち当院でできる検査項目について検討し、前沢診療所からの受託検査を令和5年11月より開始した。
10.地域包括ケア病床の増床検討	×	理学療法士の人員不足により増床検討には至らなかった。(現状人員で包括病床リハ対象者への提供平均単位数2.0を確保するのがギリギリであったため)
11.サブアキュートの患者受け入れや介護施設との連携強化	○	開業医のバックベッド登録システムについて検討を行った。医療連携室において介護施設への訪問を複数回実施した。
12.医療的ケア児の対応検討	○	訪問看護ステーションきらりの職員が医療的ケア児研修・コーディネータ研修に参加しスキルアップを図った。
13.レスパイト入院の対応検討	○	医療連携室が相談窓口となり、当院かかりつけや胆江圏域在住者を中心に受入相談に対応した。【令和5年度実績】30件

【実施状況】◎=完了 ○=継続中 ×=未実施

Ⅲ 収支計画の実績

1 収益的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
1 医業収益	1,620,156	1,445,768	-174,388	89%
(1) 入院収益	766,500	631,575	-134,925	82%
(2) 外来収益	641,521	581,930	-59,591	91%
(3) その他医業収益	212,135	232,263	20,128	109%
うち他会計負担金	137,907	137,907	0	100%
2 医業費用	2,571,208	2,376,812	-194,396	92%
(1) 給与費	1,391,282	1,321,762	-69,520	95%
(2) 材料費	317,013	272,371	-44,642	86%
(3) 経費	721,358	653,104	-68,254	91%
(4) 減価償却費	115,155	115,154	-1	100%
(5) 資産減耗費	5,540	1,955	-3,585	35%
(6) 研究研修費	10,936	4,710	-6,226	43%
(7) 本部費配賦額	9,924	7,758	-2,166	78%
医業損益	-951,052	-931,045	20,007	98%
3 医業外収益	777,534	783,525	5,992	101%
4 医業外費用	94,363	118,218	23,855	125%
5 訪問看護事業収益	59,400	47,077	-12,323	79%
(1) 外来収益	59,400	47,077	-12,323	79%
(2) その他医業収益	0	0	0	-
6 訪問看護事業費用	74,602	64,564	-10,038	87%
(1) 給与費	68,457	61,448	-7,009	90%
(2) 材料費	0	0	0	-
(3) 経費	5,993	3,104	-2,889	52%
(4) 減価償却費	0	0	0	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-
(6) 研究研修費	152	12	-140	8%
7 訪問看護事業外収益	28	16	-12	57%
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-
経常損益	-283,055	-283,208	-152	100%
特別利益	1	1,127	1,126	112740%
特別損失	2,401	16,843	14,442	701%
当年度純損益	-285,455	-298,923	-13,468	105%
前年度繰越欠損金	609,695	609,695	0	100%
当年度未処理欠損金	895,150	908,618	13,468	102%

※予備費は未計上

※増減率は、収益の項目は増減率が高いほど達成度が高く、費用の項目は増減率が低いほど達成度が高いと判断します。

2 資本的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
資本的収入	60,743	56,417	-4,326	93%
資本的支出	117,587	104,004	-13,583	88%

3 一般会計繰出金

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
収益的収支	673,284	662,748	-10,536	98%
資本的収支	58,177	53,851	-4,326	93%
合 計	731,461	716,599	-14,862	98%

IV 運営評価委員会における評価

- ・新医療センター構想に先駆けて病床削減を進める検討をされたい。
- ・看護師の減員は進捗していると評価する。
- ・国の考える地域医療構想、医師の働き方改革、地域住民の人口減などを考えると、規模縮小、経営の効率化を考えなければならない。建物、医療機器をはじめ設備の老朽化にも対応が必要であり、それに合わせたプランの構築が望まれる。
- ・地域包括ケア病床のさらなる充実、訪問看護ステーションのさらなる充実が望まれる。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類化移行による高単価医療の減少、新型コロナウイルス感染症患者の減少による入院・外来患者数の減少の影響が見られる。
- ・理学療法士の人員不足が課題である。
- ・病床利用率向上対策の継続、救急患者の積極的な受入れ、医師奨学生の早期着任促進、地域連携の強化、理学療法士の増員の検討などが必要である。

令和5年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調書

施設名	まごころ病院
-----	--------

I 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和5年度 目標(A)	令和5年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	増減理由
医師数	9人	9人	100%	A	院内クラスター期間、入院受入れの停止及び回復患者の退院促進を行ったことにより入院患者数が減少した コロナ禍で多くなった長期処方の患者がそのまま推移している 地域包括ケア病床での入院期間を意識したベッドコントロールが必要である クラスター発生時に受け入れを断ったこと等による 時間外は、十分な検査体制が取れず対応できないことがあった ほぼ目標に到達した
入院患者数	11,800人	11,624人	99%	B	
外来患者数	43,000人	39,892人	93%	B	
平均在院日数(※1)	23.0日	19.2日	83%	B	
紹介率	28.0%	27.1%	97%	B	
救急車搬送者数	140人	247人	176%	A	
救急患者受入数	480人	409人	85%	C	
訪問診療件数	1,120件	1,150件	103%	A	
訪問看護件数	1,500件	1,439件	96%	B	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分		令和5年度目標	令和5年度実績	達成度	増減理由
に収 係 益 改 目 善	経常収支比率	87.7%	91.5%	A	ほぼ目標どおり。一般とケア病床とでベッドコントロールがうまくいった 令和5年度の達成状況は左記のとおりであるが、令和4年度実績は162.7人で、8.8人増えた
	医業収支比率	70.1%	73.7%	A	
	修正医業収支比率	67.3%	70.7%	A	
	累積欠損金比率(※2)	108.1%	105.1%	A	
収入 確 保 に 係 る 目 標	1日当たり平均患者数	入院	32.2人	31.8人	B
		外来	177.0人	171.5人	B
	患者1人1日当たり診療収入	入院	29,631円	31,838円	A
		外来	8,354円	8,157円	B
	病床利用率		67.2%	66.2%	B
に経 係 費 削 目 減	対修正医業 収益比率 (※1)	材料費	13.3%	12.0%	A
		委託費	14.9%	15.6%	B
		職員給与費	94.2%	88.5%	A
		減価償却費	9.8%	9.8%	A
るに定 の係 目係 化安	常勤医師数		9人	9人	A
	常勤看護師数		37人	37人	A

【達成度について】

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%未満の場合

※1については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が110%以上の場合

※2については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。実績値が目標値より低い場合がA、差が10%まではB、10%以上はCとします。

Ⅱ 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.病床利用率の向上対策	○	入退院調整を実施している
2.地域包括ケア病床の増床検討	◎	令和5年11月に包括ケア病床を10床増やして32床にした
3.在宅や介護施設との連携強化及びサブアキュートの受け入れ	○	
4.レスパイト入院の対応検討	○	対応するも件数増えず。訪問診療先患者に、積極的にアプローチする
5.在宅時医学総合管理料の加算	○	新規の訪問診療患者への適用で進めたが、令和6年6月に全ての患者に適用させた
6.連携室の活用による関係機関との連携強化及び紹介率の向上	○	在宅（看取り含む）医療にかかる紹介は受けている
7.ホームページの適時更新による情報提供の促進	×	限られたスタッフの中で、定期的な情報更新はかなり難しい
8.同一規模医療機関との診療内容比較による診療単価の見直し	○	
9.新規加算取得の検討	○	在宅時医学総合管理料を取得できた
10.業務効率改善による時間外勤務削減	○	夜勤看護師のナースウェアをカラー化した。看護業務のチェックリストを作成し運用を始めた
11.材料の合同購入及び安価な資材への変更による経費節減	○	
12.歯科・口腔外科において、診療体制の見直しによる保険診療人数枠の増加	○	

【実施状況】 ◎=完了 ○=継続中 ×=未実施

Ⅲ 収支計画の実績

1 収益的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
1 医業収益	775,837	764,642	-11,195	99%
(1) 入院収益	349,646	370,087	20,441	106%
(2) 外来収益	359,201	328,066	-31,135	91%
(3) その他医業収益	66,990	66,488	-502	99%
うち他会計負担金	31,230	31,230	0	100%
2 医業費用	1,106,338	1,036,851	-69,487	94%
(1) 給与費	686,748	662,187	-24,561	96%
(2) 材料費	99,124	88,784	-10,340	90%
(3) 経費	238,748	207,495	-31,253	87%
(4) 減価償却費	72,842	72,841	-1	100%
(5) 資産減耗費	1,500	336	-1,164	22%
(6) 研究研修費	3,027	1,881	-1,146	62%
(7) 本部費配賦額	4,349	3,329	-1,020	77%
医業損益	-330,501	-272,210	58,291	82%
3 医業外収益	220,517	218,850	-1,667	99%
4 医業外費用	25,996	34,182	8,186	131%
5 訪問看護事業収益	10,309	9,085	-1,224	88%
(1) 外来収益	10,309	9,085	-1,224	88%
(2) その他医業収益	0	0	0	-
6 訪問看護事業費用	15,125	13,599	-1,526	90%
(1) 給与費	14,340	13,063	-1,277	91%
(2) 材料費	0	0	0	-
(3) 経費	785	536	-249	68%
(4) 減価償却費	0	0	0	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-
(6) 研究研修費	0	0	0	-
7 訪問看護事業外収益	9	21	12	232%
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-
経常損益	-140,787	-92,035	48,752	65%
特別利益	3	928	925	30945%
特別損失	12,580	27,434	14,854	218%
当年度純損益	-153,364	-118,541	34,823	77%
前年度繰越欠損金	684,949	684,918	-30	100%
当年度未処理欠損金	838,313	803,489	-34,823	96%

※予備費は未計上

※増減率は、収益の項目は増減率が高いほど達成度が高く、費用の項目は増減率が低いほど達成度が高いと判断します。

2 資本的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
資本的収入	53,801	57,822	4,021	107%
資本的支出	93,229	89,451	-3,778	96%

3 一般会計繰出金

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
収益的収支	242,781	240,424	-2,357	99%
資本的収支	53,404	53,576	172	100%
合 計	296,185	294,000	-2,185	99%

IV 運営評価委員会における評価

・院内クラスター発生の影響で、入院・外来患者数、紹介率が目標を下回った。

・訪問診療の件数が高い数値で安定している。

・訪問診療などに総合的に対応し、病床機能を地域包括ケアに切り替えることで稼働率も収益も上がっているが、病床削減の検討、看護師の減員が必要ではないか。

・訪問診療患者への積極的なアプローチ、救急患者受入れ体制の強化、在宅や介護施設との連携強化、レスパイト入院への対応に努められたい。

・今後の医療機器の更新等においては、スタッフの操作効率を上げるためにも、他の市立医療機関と同一機器としていくことを検討されたい。

令和5年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調書

施設名	前沢診療所
-----	-------

I 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和5年度 目標(A)	令和5年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	増減理由
医師数	1人	1人	100.0%	A	医師の継続による。 患者受け入れ枠の見直し等による 目標どおり患者を紹介いただけたことによる。
入院患者数	-	-	-	-	
外来患者数	7,700人	7,945人	103.2%	A	
平均在院日数(※1)	-	-	-	-	
紹介率	30.3%	30.3%	100.0%	A	
救急車搬送者数	-	-	-	-	
救急患者受入数	-	-	-	-	
訪問診療件数	-	-	-	-	
訪問看護件数	-	-	-	-	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分			令和5年度目標	令和5年度実績	達成度	増減理由
収益改善に係る目標	経常収支比率		101.8%	108.3%	A	患者数の増加による収益の改善が見られたため。
	医業収支比率		42.5%	48.2%	A	患者数の増加による収益の改善が見られたため。
	修正医業収支比率		35.5%	40.7%	A	患者数の増加による収益の改善が見られたため。
	累積欠損金比率(※2)		-65.8%	-77.2%	A	患者数の増加による収益の改善が見られたため。
収入確保に係る目標	1日当たり平均患者数	入院	-	-	-	予約枠の見直し等による
		外来	31.1人	33.1人	A	
	患者1人1日当たり診療収入	入院	-	-	-	誕生月検査の実施等による
		外来	7,825円	7,862円	A	
	病床利用率		-	-	-	
経費削減に係る目標	対修正医業収益比率(※1)	材料費	14.4%	11.7%	A	医療局内検査の連携により、試薬の支出等を見直すことができた。
		委託費	43.4%	42.1%	A	内製化を進めているため。
		職員給与費	121.3%	108.1%	A	看護師が再任用職員になったことによる。
		減価償却費	47.5%	44.3%	A	更新されない医療機器が増えている。
に安定化に係る目標	常勤医師数		1人	1人	A	医師の継続による。
	常勤看護師数		4人	4人	A	看護師の継続雇用による。

【達成度について】

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%未満の場合

※1については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が110%以上の場合

※2については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。実績値が目標値より低い場合がA、差が10%まではB、10%以上はCとします。

Ⅱ 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.チェック体制強化による特定疾患療養管理料の適正加算	○	特定疾患療養管理料と生活習慣病管理料(Ⅱ)(R6.6改定から)を計画的に職員が連携しながら、適正に加算している。
2.業務内容見直しによる患者受け入れ枠の増加検討	○	患者の受入れ手順を見直し、予約患者に加え新患者を随時受入れられるよう見直しを行っている。
3.健診の時間短縮による受診者数向上	○	健診者の受入れ手順や受入れ時間を見直し、受診者数の向上を検討している。
4.かかりつけ患者に対する誕生月検査等の実施	○	チェック表を作成し、計画的に漏れが無いよう対応している。
5.関係機関との連携によりCT、骨密度、臨床検査等の受託推進	○	関係機関への通知による働きかけなどを行い、受託推進を図っている。
6.心療内科の専門性を生かした医療提供	○	スタッフによる勉強会を開催し、共通の意識を持ち、患者に信頼され、選ばれる施設環境の充実を図っている。

【実施状況】◎=完了 ○=継続中 ×=未実施

Ⅲ 収支計画の実績

1 収益的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
1 医業収益	79,335	84,048	4,713	106%
(1) 入院収益	0	0	0	-
(2) 外来収益	59,082	62,466	3,384	106%
(3) その他医業収益	20,253	21,582	1,329	107%
うち他会計負担金	13,025	13,025	0	100%
2 医業費用	186,794	174,551	-12,243	93%
(1) 給与費	80,437	78,513	-1,924	98%
(2) 材料費	9,540	8,295	-1,245	87%
(3) 経費	62,927	54,806	-8,121	87%
(4) 減価償却費	31,488	31,487	-1	100%
(5) 資産減耗費	1,300	700	-600	54%
(6) 研究研修費	633	394	-239	62%
(7) 本部費配賦額	469	355	-114	76%
医業損益	-107,459	-90,502	16,957	84%
3 医業外収益	120,265	120,426	161	100%
4 医業外費用	9,342	14,325	4,983	153%
5 訪問看護事業収益	0	0	0	-
(1) 外来収益	0	0	0	-
(2) その他医業収益	0	0	0	-
6 訪問看護事業費用	0	0	0	-
(1) 給与費	0	0	0	-
(2) 材料費	0	0	0	-
(3) 経費	0	0	0	-
(4) 減価償却費	0	0	0	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-
(6) 研究研修費	0	0	0	-
7 訪問看護事業外収益	0	0	0	-
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-
経常損益	3,464	15,599	12,135	450%
特別利益	1	0	-1	0%
特別損失	800	233	-567	29%
当年度純損益	2,665	15,367	12,702	577%
前年度繰越欠損金	-49,512	-49,513	-1	100%
当年度未処理欠損金	-52,177	-64,880	-12,702	124%

※予備費は未計上

※増減率は、収益の項目は増減率が高いほど達成度が高く、費用の項目は増減率が低いほど達成度が高いと判断します。

2 資本的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
資本的収入	38,874	38,810	-64	100%
資本的支出	59,779	58,999	-780	99%

3 一般会計繰出金

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
収益的収支	132,126	132,190	64	100%
資本的収支	38,874	38,810	-64	100%
合 計	171,000	171,000	0	100%

IV 運営評価委員会における評価

- ・多くの項目で目標を達成しており、経営状況は良好。
- ・目標どおりの紹介率を維持している。
- ・医業費用が高額な印象を受ける。見直しが必要ではないか。
- ・高額な診療機器の更新については、他の市立医療機関との共用、あるいは他の医療機関への依頼等に対応可能ではないか。
- ・医療局内検査の連携による試薬の支出等の見直し、内製化の推進に努められたい。
- ・前沢地域は私立診療所が増えており、入院施設のある病院もある。開設当初の目的はすでに達成しているものと思われ、今度の存続の有無について考える時期に来ている。
- ・所長の心療内科としてのスキルは、全市民に役立てるためにも総合水沢病院で活躍してもらいたい。

令和5年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調査

施設名	衣川診療所
-----	-------

I 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和5年度 目標(A)	令和5年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	増減理由
医師数	2人	2人	100%	A	・概ね目標値を達成している。 ・紹介率について、紹介患者数は前年度の37人から47人と増加したところであるが、新型コロナウイルス感染症5類移行後に外来対応医療機関として発熱外来を開始したこともあり、初診患者数が前年度と比較して約1.7倍になったことから、目標値を大きく下回ったもの。
入院患者数	1,569人	1,620人	103%	A	
外来患者数	9,180人	8,975人	98%	B	
平均在院日数(※1)	17.0人	14.2人	84%	A	
紹介率	20.0%	13.7%	69%	C	
救急車搬送者数	-	-	-	-	
救急患者受入数	-	-	-	-	
訪問診療件数	9件	8件	89%	C	
訪問看護件数	-	-	-	-	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分			令和5年度目標	令和5年度実績	達成度	増減理由
収益改善に係る目標	経常収支比率		91.1%	95.6%	A	・概ね目標値を達成している。 ・外来の1日当たり平均患者数は、常勤医師1名が入院し、15日間不在であったため、目標値を下回ったもの。 ・対修正医業収益比率の減価償却費は、医業収益が目標値を下回ったため、占める割合が増えたもの。
	医業収支比率		49.2%	53.0%	A	
	修正医業収支比率		45.6%	49.0%	A	
	累積欠損金比率(※2)		36.5%	26.8%	A	
収入確保に係る目標	1日当たり平均患者数	入院	4.3人	4.4人	A	
		外来	38.1人	37.2人	B	
	患者1人1日当たり診療収入	入院	22,000円	22,545円	A	
		外来	11,601円	11,519円	B	
	病床利用率		22.6%	23.3%	A	
経費削減に係る目標	対修正医業収益比率(※1)	材料費	36.8%	28.5%	A	
		委託費	24.7%	22.1%	A	
		職員給与費	124.8%	118.9%	A	
		減価償却費	12.7%	13.0%	B	
経費の安定化に係る目標	常勤医師数		2人	2人	A	
	常勤看護師数		12人	11人	B	

【達成度について】

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%未満の場合

※1については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が110%以上の場合

※2については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。実績値が目標値より低い場合がA、差が10%まではB、10%以上はCとします。

Ⅱ 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.へき地診療所としての医療提供体制の確保	○	・地域内唯一の医科医療機関としての役割を担い、隣接する高齢者施設との連携を密にしながら、衣川地域の地域包括ケアシステムを推進するため、医療提供体制の維持に努めた。
2.外来診療単価の適時見直し	○	・地域包括診療加算2、機能強化加算2及び情報通信機器を用いた診療に係る基準を新たに取得するとともに、必要な患者に必要な検査を適切に実施し、外来診療単価の向上に努めた。
3.モバイルを活用した遠隔診療の実施	○	・令和6年2月6日から遠隔診療車を活用したオンライン診療を開始し、高齢者が抱える地域課題に対応した医療提供体制の構築に向けて取り組んだ。
4.健診の受診率向上策検討	○	・市から受託している健診について、通院患者への働きかけを行うなどし、前年度の57件から85件に増加しており、健診受診率向上に寄与した。
5.訪問診療の再開	×	・遠隔診療の実施状況を踏まえ、医師及び看護師の診療体制と合わせて次年度以降に検討予定。

【実施状況】◎=完了 ○=継続中 ×=未実施

Ⅲ 収支計画の実績

1 収益的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
1 医業収益	173,396	170,633	-2,763	98%
(1) 入院収益	34,518	36,522	2,004	106%
(2) 外来収益	106,497	103,385	-3,112	97%
(3) その他医業収益	32,381	30,725	-1,656	95%
うち他会計負担金	12,987	12,987	0	100%
2 医業費用	352,117	321,794	-30,323	91%
(1) 給与費	200,208	192,876	-7,332	96%
(2) 材料費	59,037	44,866	-14,171	76%
(3) 経費	70,169	61,827	-8,342	88%
(4) 減価償却費	20,432	20,430	-2	100%
(5) 資産減耗費	500	714	214	143%
(6) 研究研修費	845	380	-465	45%
(7) 本部費配賦額	926	701	-225	76%
医業損益	-178,721	-151,162	27,559	85%
3 医業外収益	157,257	154,753	-2,504	98%
4 医業外費用	10,994	18,573	7,579	169%
5 訪問看護事業収益	0	0	0	-
(1) 外来収益	0	0	0	-
(2) その他医業収益	0	0	0	-
6 訪問看護事業費用	0	0	0	-
(1) 給与費	0	0	0	-
(2) 材料費	0	0	0	-
(3) 経費	0	0	0	-
(4) 減価償却費	0	0	0	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-
(6) 研究研修費	0	0	0	-
7 訪問看護事業外収益	0	0	0	-
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-
経常損益	-32,457	-14,981	17,476	46%
特別利益	2	0	-2	0%
特別損失	652	512	-140	78%
当年度純損益	-33,107	-15,493	17,615	47%
前年度繰越欠損金	30,236	30,236	0	100%
当年度未処理欠損金	63,343	45,729	-17,615	72%

※予備費は未計上

※増減率は、収益の項目は増減率が高いほど達成度が高く、費用の項目は増減率が低いほど達成度が高いと判断します。

2 資本的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
資本的収入	52,004	51,940	-64	100%
資本的支出	108,607	99,970	-8,637	92%

3 一般会計繰出金

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
収益的収支	142,087	138,009	-4,078	97%
資本的収支	32,963	32,599	-364	99%
合 計	175,050	170,608	-4,442	97%

IV 運営評価委員会における評価

- ・衣川地域唯一の有床診療所として、学校保健を含め地域住民にとって必要不可欠な医療機関と考える。
- ・多くの項目で目標を達成している。
- ・外来患者数が目標を下回っている。
- ・紹介率向上に向けた取り組み、遠隔診療の継続などに努められたい。
- ・病床の維持については大局的な視点で議論を進めていくべきである。平均入院患者5名での病棟運用の継続は難しいのでは。
- ・病床利用率が低く、病床維持のための経費(人件費等)が負担となっていると思われる。入院診療が必要な場合は近隣病院で診るようにし、在宅や介護施設で慢性期を診るような工夫があってもよいのではと考える。

令和5年度 奥州市立病院・診療所経営強化プラン点検・評価調書

施設名	衣川歯科診療所
-----	---------

I 数値目標にかかる点検

(1) 医療機能や医療の質、連携強化等にかかる数値目標

指 標	令和5年度 目標(A)	令和5年度 実績(B)	増減比較 (B/A)	達成度	増減理由
医師数	1人	1人	100%	A	・訪問歯科診療件数については、令和4年度の7件から令和5年度は6件となっており、広報の活用や院内掲示等により広く地域住民への周知に取り組んだところではあるが、新規対象者の掘り起こしまでには至らなかったところ。
入院患者数	-	-	-	-	
外来患者数	4,558人	4,623人	101%	A	
平均在院日数(※1)	-	-	-	-	
紹介率	1.5%	1.2%	80%	C	
救急車搬送者数	-	-	-	-	
救急患者受入数	-	-	-	-	
訪問診療件数	10件	6件	60%	C	
訪問看護件数	-	-	-	-	

※ 救急患者受け入れ人数は救急搬送者数を含まないものとする。

(2) 経営指標にかかる数値目標

区 分			令和5年度目標	令和5年度実績	達成度	増減理由
収益改善に係る目標	経常収支比率		113.5%	124.4%	A	・概ね目標値を達成している。
	医業収支比率		67.1%	73.5%	A	
	修正医業収支比率		51.8%	56.2%	A	
	累積欠損金比率(※2)		-78.5%	-94.9%	A	
収入確保に係る目標	1日当たり平均患者数	入院	-	-	-	
		外来	18.9人	19.2人	A	
	患者1人1日当たり診療収入	入院	-	-	-	
		外来	8,388円	7,999円	B	
	病床利用率		-	-	-	
経費削減に係る目標	対修正医業収益比率(※1)	材料費	20.4%	14.0%	A	
		委託費	13.4%	11.6%	A	
		職員給与費	122.4%	119.1%	A	
		減価償却費	15.5%	16.1%	B	
経費の安定化に係る目標	常勤医師数		1人	1人	A	
	常勤看護師数		-	-	-	

【達成度について】

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以上の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%以上で100%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が90%未満の場合

※1については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。

A	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%以下の場合
B	目標値と実績値を比較し、その増減比較が100%を超え110%未満の場合
C	目標値と実績値を比較し、その増減比較が110%以上の場合

※2については、数値が低くなれば達成度が高くなる項目となります。実績値が目標値より低い場合がA、差が10%まではB、10%以上はCとします。

Ⅱ 目標達成に向けた具体的な取組に対する評価

取組項目	実施状況	取組に対する自己評価
1.へき地診療所としての医療提供体制の確保	○	・地域内唯一の歯科医療機関として、次年度以降に向けた持続可能な医療提供体制(職員体制)の検討を進めた。
2.診療材料及び診療備品の計画購入による経費削減	○	・予算管理を行いながら診療材料や消耗品の在庫を抱えないよう取り組んだとともに、診療備品の更新計画の作成を行った。

【実施状況】◎=完了 ○=継続中 ×=未実施

Ⅲ 収支計画の実績

1 収益的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
1 医業収益	51,204	49,636	-1,568	97%
(1) 入院収益	0	0	0	-
(2) 外来収益	38,231	36,977	-1,254	97%
(3) その他医業収益	12,973	12,658	-315	98%
うち他会計負担金	11,672	11,672	0	100%
2 医業費用	76,341	67,542	-8,799	88%
(1) 給与費	48,392	46,153	-2,239	95%
(2) 材料費	8,067	5,325	-2,742	66%
(3) 経費	12,620	9,487	-3,133	75%
(4) 減価償却費	6,122	6,121	-1	100%
(5) 資産減耗費	500	49	-451	10%
(6) 研究研修費	307	156	-151	51%
(7) 本部費配賦額	333	252	-81	76%
医業損益	-25,137	-17,907	7,230	71%
3 医業外収益	37,601	38,011	410	101%
4 医業外費用	1,928	2,905	977	151%
5 訪問看護事業収益	0	0	0	-
(1) 外来収益	0	0	0	-
(2) その他医業収益	0	0	0	-
6 訪問看護事業費用	0	0	0	-
(1) 給与費	0	0	0	-
(2) 材料費	0	0	0	-
(3) 経費	0	0	0	-
(4) 減価償却費	0	0	0	-
(5) 資産減耗費	0	0	0	-
(6) 研究研修費	0	0	0	-
7 訪問看護事業外収益	0	0	0	-
8 訪問看護事業外費用	0	0	0	-
経常損益	10,536	17,200	6,664	163%
特別利益	2	15	13	771%
特別損失	222	3	-219	2%
当年度純損益	10,316	17,212	6,896	167%
前年度繰越欠損金	-29,870	-29,871	-1	100%
当年度未処理欠損金	-40,186	-47,083	-6,897	117%

※予備費は未計上

※増減率は、収益の項目は増減率が高いほど達成度が高く、費用の項目は増減率が低いほど達成度が高いと判断します。

2 資本的収支

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
資本的収入	10,394	10,283	-111	99%
資本的支出	19,069	17,769	-1,301	93%

3 一般会計繰出金

単位:千円

事業収支	令和5年度			
	計画値	実績	計画値との差	増減率
収益的収支	38,625	38,717	92	100%
資本的収支	10,387	10,283	-104	99%
合 計	49,012	49,000	-12	100%

IV 運営評価委員会における評価

・衣川地域唯一の歯科診療所であり、学校保健を含め地域住民の健康管理に必要な診療所であるとする。

・ほとんどの項目で目標を達成、あるいは上回っており、経営状況は良好である。

・訪問歯科診療の対象者の掘り起こしが課題である。

・持続可能な医療提供体制の検討、診療材料や消耗品の在庫管理、診療備品の更新計画の作成などに努められたい。

・収益については地域住民の人口減など患者数増加は難しいと思われ、診療日数を減じ、まごころ病院歯科口腔外科と統合しサテライト診療所とするなど、より効率の良い医療を考慮するよう検討されたい。